



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

東京支部発足
80周年！

2021. 06. 01
第 77 号

今年度の聖句

主は人の一步一步を定め、御旨にかなう道を備えて下さる。
人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえてくださる。(詩篇 37:23-24)

ご挨拶 —感謝を込めて—

広島女学院同窓会会長 竹内路子

東京支部の皆様、いつも同窓会のためにご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年 2020 年 4 月、同窓会創立百周年という記念すべき年に、大矢みどり前会長の後を受け、会長を仰せつかりました。微力ではございますが、皆様のお力をお借りしながら、この重責を果たして参りたいと存じます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

東京支部におかれましては、1941 年(昭和 16 年)4 月 23 日第 1 回総会を開催され、爾来 80 年の永きに亘って、関東ブロックの中核支部として、発信力のある活発な活動を続けて下さり、心より敬意を表すると共に感謝申し上げます。

着任早々、世界的な新型コロナウイルス感染拡大という非常事態に見舞われ、2020 年度予定されていた多くの行事も中止や延期を余儀なくされました。しかしながら、このコロナ禍にあって、東京支部をはじめ全国のブロック・支部・地区の皆様が、困難な中でも工夫を凝らしながら同窓会活動を継続展開下さっているお姿に、勇気とパワーを頂きました。同窓生皆様方のたゆまぬご奉仕によって、同窓会が百年の時を刻むことが出来たと、改めて確信した次第です。

私達同窓生は、年代も学年も違い、馴染みのある校舎や施設も同じではありません。しかし、人生の中で一番多感な時期にキリスト教に立脚した教育を受け、上幟町や牛田山で多くの時間を過ごしました。そこには時を超えても変わることのない空気感が存在します。同窓生が二人以上集まれば、年代を超え

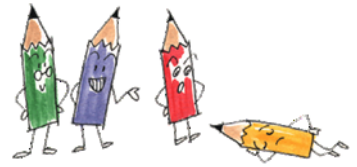
て、その空気感が現れます。その空気感を共有することが同窓会活動の醍醐味の一つではないでしょうか。このコロナ禍では日常が非日常となり、その空気感を共有する機会も制限されて

おりますが、そんな中“2020-21 年ホームカミングデー”を 4 月 24 日に開催いたしました。開催に当たっては賛否両論・紆余曲折ございましたが、実行委員会で万全の安全対策を施して頂き、実現いたしました。例年のように、美味しいお料理やおしゃべりは堪能出来ませんでしたが、礼拝の時を共に持ち、ピアノから流れる賛美歌や校歌を心の中で歌い、皆で笑顔と笑顔、心と心を繋ぐことが出来ました。そして湊晶子先生より礼拝メッセージを、三谷高康新院長・学長先生より就任のご挨拶を頂くことが出来、感謝の気持ちで一杯です。

2021 年度も困難な状況下に在りますが、「我らは神と共に働くものなり」の精神を今一度胸に刻み、笑顔で集える日を信じて参りましょう。

最後になりましたが、東京支部の皆様に主の平安がありますことをお祈りいたします。





「真実を言い表すのに、 多くのくふうと技巧が必要だった」

中澤 香奈 (柳原/高校 46 回)

広島女学院中学校に入った直後の映像は、30 年以上たった今でも目に焼き付いているのですが、中学高校のことは、今となってはぼんやりとした記憶になっています。それでも毎日の慌ただしい暮らしの中で、ふとした時に中学高校でのワンシーンを思い出すと、にんまり楽しい気持ちになります。

アメリカの小学校から帰国子女枠で入学した私にとって、広島女学院には前知識がなかったため、見るもの、聞くものすべてが新しく、制服を着た女性だらけの教室というのがなんとも新鮮でした。中学 2 年生は今思うと反抗期真っ盛りで、現在校長を務めていらっしゃる渡辺信一先生には大変お世話になりました。女子校ならではの、異性を気にしないでいいマイペースで自由な雰囲気を満喫し、時には謳歌しすぎて先生方に怒られていました。高校では、森永先生の現代文の授業が好きでした。夏目漱石や森鷗外などの文豪の作品に触れながら、日本文学の面白さの一片を垣間見せていただいたなと感謝しています。本に描かれる東京の街に思いを馳せ、大学は東京に行きたいと思うようになったきっかけでもあります。森永先生には授業以外で『金色夜叉』などの書物をお借りし、友人と交互に読んだのも懐かしい思い出です。卒業時には先生から、J-P・サルトルの言葉をいただきました。「真実を言い表すのに、多くのくふうと技巧が必要だったし、真実を理解してもらうのに、多くの善意と想像力を持ってもらわなければならなかった」。現代文の教科書に載っていた一節で、その後、何度も立ち返ることになった一文です。

卒業後は慶応義塾大学の総合政策学部に進み、東京の出版社に勤めました。出版社勤務といっても、高校の頃に好きだった文学作品とは仕事では縁はなく、現代社会で必要とされている実用誌を作ることがメインです。最初はピンと来ていな



かった実用書ですが、世の中の人々がまさに今知りたいと思うことや欲しいものを、本として作り上げることに、楽しさとやりがいを見出すようになりました。たとえ同じテーマでも、どの著者と、どういう切り口で、どういった体裁の商品にするかで、売れ行きがまったく変わります。

自分が手掛けた本で最初のヒットにつながったのは、『絵本からうまれたおいしいレシピ』という料理本で、シリーズの販売は 30 万部を超えました。長く愛されてきた絵本や児童書に出てくる憧れの菓子やお料理を、家で実際に作ってみようという企画です。『ぐりとぐら』のかすてら、『ハイジ』の白いパンなど、自分自身が好きだった本の世界を再現するのは夢があり、きっと親子で楽しんでくれるだろうと、読者の姿がイメージできました。

また、韓国ドラマが大人気だったタイミングで韓国語のドリルを編集し、それも韓国語を学びたい層の増加と合致し、10 万部以上売れました。市場には文法や会話文から学ぶ形式の教科書が多い中、日本の小学生が学ぶ漢字ドリルのような体裁でハングルを書いて覚えると、学習者は面白く

学べるのではないかという視点からスタートしました。

売れる本を作るのもやりがいがあったのですが、何冊もの本を作っていくうちに、「誰かが本を手にとって、その人の一日がちょっとでも楽しくなる本を作りたい」という想いが強くなっていきました。「誰かの役に立つ」。この考えは、女学院にいる時に、先生を通じて、聖書の時間や礼拝を通じて聞いてはいたのですが、10代特有の自分中心の世界観には響くものではありませんでした。理想ではあるとは思っていても、実感としてはなかったのです。数十年経って、自分の根の部分にそういう想いが育っていたことに気づきました。広島女学院で学んだ、細かな学業面のことは、不甲斐ないことにあまり覚えていません。しかし、礼拝での先生や友人のある一言、毎年面倒だと思っていた平和・人権学習のことは、不思議と思い出すことができます。

現在は、京都でフリーの編集者として仕事をしています。2021年は、東日本大震災から10年の

年でした。残念ながら日本は自然災害の多い国です。そんな中でもなんとか生きぬく力をつけられないかと『おしゃれ防災アイデア帖』という本を作りました。地震がきたら危険だよ、防災しなきゃ、という啓発的な内容では、日常生活の中で備えを続けるのは難しいと自分自身の反省がありました。だからこそ、「何から始めたらいいかわからない」「置き場所に困る」「めんどくさい」という巷の本音を汲み取りながら、楽しい気持ちで防災を進められる内容を目指しました。かつて、人間の心理面から防災をうながす書籍『人は皆「自分だけは死なない」と思っている』も作ったのですが、今回は普段の暮らしを大事にしながら防災を続ける方法です。生活にとけこみ、見るとほっとする防災アイテムの選び方や収納の仕方、インテリアとのバランスを紹介しています。

自分一人の力は微力です。しかしそれを少しでも世の中を良くするために使う喜び、工夫してみる面白さを広島女学院で過ごした6年で教わっていたんだと、今になって深く感謝するのです。



被爆 75 年に . . .



被爆 75 年という節年をどのように受け止めていらっしゃるのか、同窓生の皆様の想いを分かち合いたいとの呼びかけに応じてお寄せ頂いたメッセージの続編です。

■佐々木敦子（佐々木/高4）

私は呉市に小学 5 年までおりましたが、軍港のため空襲が激しく、B29 も来るようになったので、家族で庄原に疎開しました。そこは昔の汽車で広島駅から 3 時間もかかる所でしたのに原爆が落ちた時には広島市の空が真っ黒に見えたのを憶えています。その後、陸軍の兵隊さんが大勢トラックで運ばれてきましたが、上半身裸で体操をしていた時に被爆されたため、皮膚が溶けて、腕を上げていないと体にくっついてしまうので、まるで「おぼけ～」と言っているような姿でした。小学校の校舎は病院のようになり、各家庭からシーツを出し、裂いて包帯の代わりにしていました。6 年生だった私達は時間を決められて団扇であおぎに行っていました。毎日、一人、二人と亡くなって、教室の入口に書かれている名前に縦線が入りました。今になって、ぞっとするような現状だったのだと感じております。（中学 1 年のひ孫から戦時中の体験レポートを頼まれたのがきっかけで書きました。）

■大濱久子（竹林/高10）

コロナ禍の喧騒の中で迎えた被爆 75 年。1945・8・6、私は幼稚園児で、姉と二人、可部町の祖父母の家に疎開させられていました。あの日の事、その後の人々の動静や環境の激変は、鮮明に記憶に残っています。風化していく原爆・戦争はコロナの比ではないと痛感して居りました折、庭田杏樹著『AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』を新聞紙上で目にして衝撃を受けました。原爆の一瞬が人間の「日常」を根こそぎ奪ってしまうことに着眼して当時の写真をカラー化する地道な作業を続け、若い世代も身近な事として考えよう、とその鋭い発想と視点そして実行力に心を動かされました。本を買う事で庭田さんを応援しよう！と女学院の友人に声をかけました。平和であることの有り難さをつくづく再認識させられた年でもありました。

「記憶の解凍」～戦争体験者の「思い・記憶」のあたらしい伝え方～

庭田 杏珠（高校 72 回）

2020 年の春、私は東京大学に進学しました。

高校 3 年間、「記憶の解凍」プロジェクトを東京大学大学院の渡邊英徳先生と進めてきました。

原爆投下前の広島白黒写真を AI（人工知能）技術でカラー化し、資料や対話をもとに「記憶の色」をよみがえらせ、戦争体験者の「思い・記憶」を未来へ継承したいと考えています。

大学では、高校在学中の実践を進化させ、「平和教育の教育空間」について探究しています。



左から、渡邊英徳先生、濱井徳三さん(2019 年)

高校 1 年生の夏、広島平和記念公園で、偶然、濱井徳三さんと出会いました。濱井さんの生家は原爆投下前 4,400 人が暮らした繁華街・中島地区（現在の平和記念公園）で「濱井理髪館」を営んでいました。疎開先に持参した大切なアルバムには戦前のご家族とのしあわせな日常を写した貴重な白黒写真約 250 枚が収められていました。濱井さんとの出会いの 1 週間後、沖縄慰霊の日の講演

で来校されていた渡邊先生のワークショップに参加し、早稲田大学石川博研究室が開発した、「AI による白黒写真の自動色付け技術」を学びました。

「原爆で亡くなったご家族をいつも近くに感じてほしい」という思いから、カラー化を始めました。アルバムにしてプレゼントすると、「家族がまだ生きているようだ」と、とても喜ばれました。桜の名所・長寿園での花見の写真を見ながら対話すると、「杉鉄砲でよく遊んだなあ」と、白黒写真では思い出さなかった新たな記憶がよみがえりました。

その後も、濱井さんとの出会いに同席されていたヒロシマ・フィールドワーク実行委員会の中川幹朗先生から、中島地区の元住民をご紹介いただいて、繋がりが少しずつ広がっていきました。

「中島地区の方がお元気なうちに、戦前の中島地区の生活の息づかいをカラー化写真でよみがえせたい。そして、戦前には私たちと変わらない暮らしがあって、それがたった一発の原子爆弾によって一瞬のうちに奪われてしまったことを、自分ごととして想像してもらえる空間を作りたい。」

高校 2 年生の時、徐々に規模を大きくしながら、文化祭を含む学内で 2 回展示会を行ない、地元テレビ局と渡邊研究室主催で、広島テレビ新社屋完成記念として、市民に向けた展覧会を開催することができました。期間中にはワークショップや座談会を設け、3,500 人以上の方にお越しいただきました。会場中央のテーブルでは、中島地区の方が思い出を懐かしく語り合う空間を作れたことが、とても嬉しかったです。

一方で展覧会の後、すぐに亡くなられた方もいらっしゃいました。

私たちは、戦争体験者から直接お話を伺える最後の世代であり、「記憶の色」を伺える時間も限られていると改めて感じました。



浄寶寺の故・諏訪了我さんとの対話(2018年)

展示会の他、これまで国際会議における専門家への発信、映像作品やスマートフォンアプリの制作、講演会、テレビや新聞、雑誌などのメディアを通して、多方面の人が戦争や平和について「自分ごと」として想像する「空間」を提供してきました。

昨年はコロナ禍においても、立ち止まり諦めるのではなく、「今できること」は何かを常に考え、歩みを進めてきました。

2020年7月1日にリニューアルオープンした平和記念公園内レストハウス3階の中島地区を紹介するスペースでは、「記憶の解凍」プロジェクトの展示を担当しました。

また、渡邊先生と共著で出版した写真集『AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』（光文社新書、2020年7月）は、発売後1ヶ月で、発行部数6万部を達成し、あたらしい貴重な繋がりも生まれています。卒業後も交流が続いている恩師の黒瀬真一郎先生が、フェイスブックで書籍を紹介いただくと、福屋の屋上から「被爆一年後の焼け跡を見つめるカップル」写真に写る男性が分かり、直接お話を伺って、「記憶の色」をよみがえらせることができました。

大学では、文理を横断した幅広い分野の講義が開かれ、研究の第一線で活躍されている先生や、世界中から集まる多才な仲間との出会いに恵まれ、これまでの取り組みを多面的に考察し、より深めていくことができています。

例えば、「写真論」の授業では、「戦争」という概念は、個人の貴重な戦争体験が積み重なってで

きたものであり、私の取り組みは、それらを掘り起こし、未来へ伝えていくことに繋がっているということに気がきました。また、コロナ禍において進めているオンライン化の重要さと、逆説的に、「記憶の解凍」ARアプリを使いながら、「五感」を通して平和公園を歩くなど、実空間での学びも不可欠だと感じています。

「わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように」（フィリピの信徒への手紙 1:9-10）

この聖句は、私が女学院に入学した時に、先輩からプレゼントされた聖書袋に添えられたメッセージカードに記されていたもので、今の取り組みに通ずるものがあると思います。

私も卒業する時に、新しく入学してくる後輩のことを想って、この大切な聖句を贈りました。

アートやテクノロジーを通して、戦争や平和に無関心な人にも、「もう誰にも同じ思いをさせてはならない」と平和を希求する、戦争体験者の「想い・記憶」が共感の輪とともに社会に拡がり、未来へ受け継がれていく。これが今の私にできるあたらしい伝え方です。



そして、「令和2年度東京大学総長賞」を受賞することができました。これまで支えていただいたすべての方に感謝しています。

これからも、私の使命を常に考え続けながら、地域社会や世界に貢献していきたいと思っています。

ドキュメンタリー映画「ヒロシマへの誓い サーロー節子と共に」



アメリカ在住の竹内 道さん(高26)が制作されたサーロー節子さんのドキュメンタリー映画の上映が4月17日から全国で始まり、東京では渋谷の“ユーロスペース”で5月7日まで上映されました。

東京支部では、会場ロビーに生花のスタンドを設置したほか、関東ブロックのFacebookの「宣伝」を利用して、20日間で11,000人を超える一般の方々に上映情報をお伝えしました。

映画を視聴した同窓生からは、「感動しました!」、「一人一人が何か行動したいですね!」というメッセージが数多く寄せられました。

この映画を竹内さんがどういう思いで作られたかを考え、「良かったね」で終わらず、サーローさんのおっしゃるように「行動」に繋げましょう。署名によって、政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求めることができます。右のQRコードを



スマホで読み取ってオンライン署名もできますし、パソコンで「東友会署名」で検索し、ダウンロードした用紙に記入して郵送することもできます。(東友会は東京在住の被爆者の会です。)是非、ご賛同下さい!日本政府が批准する日をサーローさん、竹内さんと共に迎えましょう!

※ 映画は東京では、この夏、“下高井戸シネマ”でも公開される予定です。

クリスマス礼拝に参加して

廣本 萬里子(廣本/高19)

昨年12月8日、師走とは思えない心地好い暖かさの中、コートを手し、短期大学時代から社会人の数年間を過ごした思い出を辿りながら、武蔵境の駅から池の上教会に向かいました。

今年は同窓生の千代崎満子さんが牧師を務められる池の上教会でのクリスマス礼拝で、マスク着用、入口でのアルコール消毒、座席の間隔を空け、換気をと、細心の注意を払っての開催となりました。

礼拝は、湊晶子先生のお嬢様・湊恵子さんのパイプオルガンの奏楽で始まり、千代崎牧師から『主役の居場所』という説教を伺いました。現代の私達が改めて「キリスト教」について、またイエスキリストの

誕生からその生涯を考える時が来ていることを感じ、千代崎牧師の奥深い言葉が心に響きました。

第二部は「パイプオルガンコンサート」で、礼拝堂の高い天窓に響く素晴らしいパイプオルガンの音色を聞きながら、今の世の中の状況が少しでも良くなる事を祈り、日常を忘れる時間になりました。

懇親会では92歳、88歳という大先輩の方々の貴重なお話を伺うことができ、手芸部による手作りの品のバザーも楽しませて頂きました。

参加者は23名と例年より少なかったようですが、初めての方のご参加もあり、温かく、意味深いクリスマス礼拝でした。



2020 年度 広島女学院同窓会東京支部 会計報告

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

収 入		支 出		
費 目	金 額	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	721,820	支部ニュース費	273,311	印刷代、封筒代、郵便送料
支部会費	584,000	役員会費	44,210	役員会会議室料、交通費
クリスマス会菓子売り上げ	7,600	支部活動費	66,409	クリスマス会、銀座教会寄付 他
受取利息	2	通信事務費	66,033	支部ニュース以外の通信事務費
		関東ブロック分担金	37,800	夏雲の集い、サーローさんの映画へ寄付
		次年度繰越金	825,659	
合 計	1,313,422	合 計	1,313,422	

上記の通り会計報告をいたします。

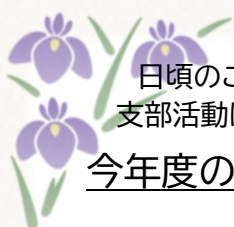
2021 年 3 月 31 日 会計 松岡理乃

監査の結果、収支報告に相違ありません。

2021 年 4 月 10 日 会計監査 重本ゆり

2021 年度 東京支部役員

支 部 長	白井京子 (現・瀧口) 高 23、文英 5	関東ブロック長 支部ニュース編集長	坂下 恵 (杉田) 文英 1
副支部長	滋野順子 (前埜) 高 19	編集委員	小林悦子 (土生) 高 46
副支部長	桜井悦子 (瀬川) 高 23、文英 5	//	平田香里 (高原) 高 47
書 記	佐藤美代子 (池田) 高 22、文日 4	実行委員	西山朋子 (佐々木) 高 22、文英 4
会 計	松岡理乃 (木沢) 高 30	//	木村貴子 (阿波) 高 32、文英 15
宗教委員	千代崎満子 (白根) 高 33、文英 15	//	氏原歌子 (佐伯) 高 32、文英 14
実行委員	鈴木章子 (岩田) 高 19、文英 1	会計監査	重本ゆり (重本) 文英 8



日頃のご支援・ご協力に感謝いたします
支部活動は皆様の会費に支えられています

今年度の会費(2,000 円)の納入を

お願い致します

80 歳以上の方もお気持ちが有りましたらお願い致します

振替用紙への電話番号・メールアドレスのご記入に

ご協力ください

銀行振り込みもご利用いただけます

三菱 UFJ 銀行 高田馬場支店

普通預金 0473771

広島女学院同窓会東京支部



今年度の予定

◇ 支部ニュース発行(6 月、11 月)

◇ 7/3(土)「夏雲の集い」開催
於 銀座教会

※上記以外は、未定です。

※役員会はほぼ毎月、広い会議室で
少人数で行っています。

■Facebook で情報を発信しています。「広島女学院同窓会関東ブロック」で検索してください。ページに「いいね！」して頂くと、情報を確実にお届けできます。

■東京支部にアドレスを登録して頂くと、リアルタイムで情報をお送りします。ご希望の方は東京支部宛にメールをお送りください。これまでの登録者が 170 名を超えました。なお、携帯のアドレスを登録される際は、パソコンからの受信を拒否する設定になっていないかご確認をお願いします。

東京支部アドレス : gaines_tokyo@yahoo.co.jp



夏雲の集い 2021

同窓会関東ブロック主催

～ 原爆死没者追悼礼拝 ～

関東ブロックでは、母校での 350 名の犠牲者を追悼し平和に向き合う集会として、故 山本（秦）知子先生の提唱による「夏雲の集い」を 1988 年から毎年開催してまいりました。昨年はコロナ禍のために集えませんでした。今年は、核兵器禁止条約が発効した記念すべき年です。是非とも開催をとの想いで、銀座教会での礼拝を企画しました。

高橋先生の礼拝・説教の後、反戦詩人 四國五郎の DVD を視聴します。内容は、五郎さんのご長男・光氏の講演と木内みどりさんによる『おこりじぞう』の朗読です。

マスクを着用の上、飲み物はご持参下さい。感染対策をしっかりとお待ちしておりますが、外出に不安のある方は、それぞれご自宅でお祈りをお願いいたします。

7月3日(土)

13 時 30 分～15 時 30 分

(受付 13 時より)

日本基督教団 銀座教会 大礼拝堂

東京都中央区銀座 4 丁目 2 番 1 号

JR 有楽町駅中央口より 徒歩 5 分

東京メトロ銀座駅 C6 または C8 出口よりすぐ



12:15～45 銀座教会 正午礼拝 (自由参加)

13:00～ 受付、13:25 着席

13:30～ 礼拝・説教 (高橋 潤 牧師)

14:00～ 50 DVD 視聴 (5 階)「四國五郎が絵本『おこりじぞう』に込めた思い」

内容：講演 (四國光 氏)、朗読『おこりじぞう』(木内みどりさん)

なお、万一、当日が緊急事態宣言下となった場合、銀座教会が開かれていれば開催いたします。銀座教会のホームページでご確認下さい。中止の場合は、広島女学院同窓会関東ブロックの Facebook でお知らせするほか、東京支部にアドレス登録をされている方々にはメールでもお知らせします。問い合わせ先：090-3200-5551(白井)

編集後記

❖ 庭田さんの聖書袋のお話は、改めて素敵な伝統だなと思うと共に、私の聖書袋はどんな先輩が作られたのか、はたまた私が作ったものはどんな後輩に渡ったのか、そんなことにも思いを馳せました。(小林)

❖ 映画「ヒロシマへの誓い」の観客の反応を肌で感じたいと、ワクチン接種を済ませてアメリカから飛んでこられた竹内道さんとお会いし、関東ブロックの役員数人と共にお話を伺うことができました。(坂下)

❖ 家で快適に過ごせるよう、カーテンを変えたり、大規模な断捨離を決行したりと、工夫しています。空間に余裕ができると、その分、気分的にも軽くなるようで、コロナ禍のストレス軽減に効果あります。(松岡)